

暖房技術シンポジウム開催 省エネと環境両立を目指す

住宅部品の認定などを行う財団法人ベターリビングは3日、ウエダスクラブと共催で、暖房技術シンポジウム「省エネ・省エネルギー性と快適性の両立を目指して」を東京都文京区「すまい・るホール」で開催した。住設機器メーカー、ゼネコン、ハウスメーカーなどから64人が参加した。床暖房の快適性を科学的に実証するテーマに関係者の注目が集まった。

地球温暖化問題に注目。一年からの京都議定書約束が迫る中、家庭部門が、期間を前に家庭内でのエネルギー消費削減が喫緊の課題となっている。一方、安心して健康に暮らすための高品質の暖房システムの研究開発を急務とする。5人の有識者によるパネルディスカッションでは、活発な議論が交わされた。



パネルディスカッションでは活発な議論が交わされた

準の将来像を設定し、それに基づいてエネルギー供給計画や断熱政策を策定する必要があると述べた。

であること、用途別のエネルギー消費単位は家電などの電力消費だけが「質」を伸ばしていることなどを紹介。「京都議定書で我々を縛られるのはおかしい。住宅設計や設備の改善、省エネを現実化する」と述べた。

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。

ければならない。消費者の立場に立つて提案していく」と述べた。技術講演で「室内温熱環境計測の最新情報とその動向」と題して講演した倉瀬隆東理科大学教授は、床暖とエアコン暖房のそれぞれについて連転時の室内温熱環境や気流の様子をコンピュータ画像で再現して注目を浴びた。「最新の被験者試験による室内温熱環境評価について」と題して講演した秋元孝之芝浦工業大学教授は、床暖房の方がエアコンよりも低い空気温度で高い快適感が得られるという実験結果を示した。田辺新一早稲田大学教授は「サーマルマスキングを用いた熱収支面からの室内温熱環境評価について」と題して講演。人が床に投げ足で座った時の熱的中立状態を基準とした場合、床暖房の投入熱量はエアコンの70〜85%と算出されたと報告した。

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。

中上英俊住環境計画研究所所長は世帯数の増加が日本の家庭部門エネルギー消費の増加の主要因

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。

「高効率の中で暖房は一層重要になる。住宅・設備関係者と生活者がみんなで取り組む必要がある」と述べた。村木夜日本カスエネ普及促進協議会(コソビ)会長は「住宅とエネルギーをより一体化して考える必要がある」と述べた。